

BMS 幹事会議事録及び定例会メモ (2005年7月8&9日)

幹事会出席者(50音順):加藤, 鐘尾, 西郷, 佐藤, 須井, 田中, 中村, 羽倉

1. 定例会の世話人を引き受けてもらえる方を強く募集する。
定例会の準備など、幹事だけでまかなうことは困難であり、当日の会場確保だけでも結構なので、BMS 会員から世話人を募集します。
2. BMS のホームページ上に、エームス試験に関することなどの質問を受け付ける場所を設置する(ホームページ委員)。
原則として、集まった質問は幹事全員にメール送付され、次回の定例会で話し合う内容とする。そのため、速やかな回答は期待しないで欲しい。素朴な疑問や欲しい文献情報など、会員同士の情報交換の一環として進めたい。
3. 次回定例会(JEMS 前日に実施)の詳細は、他分科会と合同の可能性はある。
決定次第、追って連絡する。
4. JEMS 非会員でも、BMS 定例会に参加可能とすることとした。
5. 中央労働災害防止協会主催の精度管理事業が平成16年度で終了した。このことに伴い、BMS 会員より以下の要望があった。
「自機関だけのデータ管理では管理値が偏る可能性があり、複数機関のデータを考慮して精度管理を維持したい。BMS 研究会として何かできないでしょうか？」

精度管理事業と同様なまとめ作業を、BMS 会員のみで行うことは非常に困難であることから、まとめた冊子のようなものは作成せず、まずは、以下のような流れで、データを出すことから始めることとしたい。

(1) 陰性対照値および陽性対照値について、複数回のデータを機関ごとで、蓄積する。
 - ・各機関で用いている方法で実施してもらい、主な試験条件について記録をしてもらう。
 - ・記録項目は、幹事間で検討する。
 - ・陰性および陽性対照物質は、各機関で用いているものを使用する。(2) 春の定例会で、機関ごとにデータを提示してもらう。
6. エームス試験で用いているサルモネラ菌株が組み換え生物の P2 レベル扱いに該当するか否かの質問があった。
この問題については、“組み換え生物に該当するか否か”および、“省令で使用制限されているサルモネラ菌に該当するか否か”の2面について考える必要があるものと考えられる。
まずは、科学的根拠となる情報収集が必要と考えられた。場合によっては、エームス試験に従事者の総合意見として、BMS から文部科学省に問い合わせが必要と考えられた。
7. 第32回定例会で実施したエームス試験 Q&A については、第34回定例会での結果を踏まえて内容を詰め、ホームページに掲載する(第32回定例会世話人、幹事)。